

令和5年度 江戸川区立南葛西第三小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	生きる力を養う ○確かな学力 ○豊かな心 ○健やかな体	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○みんなの個性が輝く学校 ○自分がされてうれしいことができる子供 ○共に高め合い、共感（共汗）し合う教員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○組織的学校の運営の充実 ○多様性尊重の取組の充実 <課題> ○学力向上 ○教員の授業力向上 ○働き方改革の実践的取組		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策
				取組	成果		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・教員による補習教室を年35回実施、外部委託による放課後補習教室を年30回程度実施 ・東京ベネフィットの活用と検証 ・児童の学習意欲を高める取組の実施	・児童意識調査の学習に関する項目での数値向上 ・ベネフィット利用学年平均正答率70%以上	B	B	○教員による補習教室14回、放課後補習教室12回（全30回）実施。学習に関する意識調査（7月実施）肯定的評価9割。 ●2学年（3、6年）で正答率70%を下回る結果となっている。	・学力向上に向けた取組が共通理解の下、計画的に実施されている。 ・学力向上に向けたタブレット端末の効果的な活用について今後検討していく必要がある。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学習計画の選定及び並行読書用図書の実施 ・読書科校内OJT研修年1回及び外部講師による研修3回実施 ・学校応援団と連携した学校図書館環境の整備	・図書館を使った調べる学習コクローへの参加数の増加 ・児童意識調査の読書に関する項目で数値向上	A	B	○各教科と学校図書館を連動した探究的な学習活動の実施により、2学年（3、4年）160名が参加。年度内に全校児童参加予定で取り組んでいる。読書に関する意識調査で肯定的評価7割。	・バーコード化に伴う蔵書管理システムの導入で、より一層の読書の充実及び高まりを感じる。苦学意識が高い児童への指導や配慮等、今後も取組の継続を希望する。
	<多様性の尊重> ・個々の違いを尊重し、差別を許さない指導の徹底及び性別、性的指向、障害などの多様性を尊重 ・運動意欲や基礎体力の向上	・福祉を柱とした総合的な学習の時間の充実、バリアフリー、地域団体等による出前授業を実施 ・チャレンジタイム年間35回実施、持久走記録会の実施、長縄大会の実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査の差別に関する項目で数値向上	A	A	○デフリンピックによる出前授業を3年で実施。 ・児童意識調査の差別に関する項目で数値向上。ボランティア団体や、地域団体出前授業を実施予定。	・諸機関や地域と連携を図り、効果的に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。
体力の向上	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・SC参加の生活指導夕会の毎週開催、校内研修を年1回実施 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした個別対応会議の開催 ・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営	・教員アンケートで肯定的評価8割以上、児童意識調査で人権に関する項目の数値向上	B	B	○SCと連携した生活指導夕会19回実施。組織的共有化が図れている。SCによる個の特性に応じた支援等研修の実施（1学期）。校内委員会にSCも参加することで、児童や保護者の思いに寄り添った情報共有につながっている。児童意識調査肯定的評価8割以上。	・学校組織全体で児童理解に努めており、今後も取組の継続を希望する。
	<インクルーシブ教育の推進> ・特別支援教室やことばの教室との連携による指導の充実	・教員向け研修を年2回実施 ・児童への理解教育を年2回実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上、児童意識調査で人権に関する項目の数値向上	A	B	○瞬発力、俊敏性に加え、投げる力を高めるチャレンジタイムを9回実施し、運動に関する意識調査で肯定的評価8割。	・特別支援教育への理解や指導が教員及び児童に図られ、今後も取組の充実を期待する。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・年3回（6、12、2月）の人権週間及びいじめ防止啓発デー（毎学期）の設定、いじめ防止に特化した授業を年3回実施、いじめ防止対策委員会の設置 ・hyper-QUの結果分析、指導に活用、改善	・児童意識調査で差別に関する項目の数値向上、保護者アンケートで肯定的評価8割以上	A	B	○6月人権週間での意識付け及びいじめ防止啓発デーの実施、いじめ防止授業全校実施（6月）により、児童意識調査、保護者アンケート肯定的評価8割以上。	・いじめ撲滅に向けた授業公開をはじめ、いじめの未然防止・早期対応に取り組んでおり、今後も組織的体制の下、取組を希望する。
	<自校（園）の取組の積極的な発信> ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校日記を毎日更新 ・学期の2回の学校公開実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	A	B	○学校関係者評価保護者アンケートを実施（7月）し、肯定的評価8割以上	・学校行事や学校公開を通して児童の直向きな姿が多く見られた。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員及び保護者アンケートを年2回（7月、12月）実施及び分析・改善・学校ホームページ公表	・学校評議員及び保護者アンケートで13項目肯定的評価の数値向上	B	B	○学校関係者評価保護者アンケートを実施（7月）し、12項全てで肯定的評価8割以上 ●アンケート回収率が50%（昨年度58%）と低く、2回目（12月実施）は回収率の向上を目指す。	・保護者や地域の意見に耳を傾け、改善に努めている。今後もより良い学校づくりを期待する。
	<小中連携教育の推進> ・「小中連携教育構想」及び児童生徒間の交流の充実 ・SDGs教育の推進 ・地域の歴史や特色を生かした海洋教育、環境教育の推進	・教員間の交流会年1回実施、部活動体験や中学教員による出前授業の実施、小中必読書百選の取組 ・大学教授やNGO団体メンバー、地域の人材等を講師とした授業を実施	・児童意識調査の中学進学に関する項目で肯定的評価9割以上 ・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	B	B	○教員間交流の実施（6月）し、情報の共有化が図れた。今年度も部活動体験を実施（7月）。体育大会に向けた交流学習（10月）、合唱コンクール ○食育と関連したSDGs教育を低学年で実施（6月）。葛西臨海及び地球温暖化防止を考えた学習を実施予定。	・小中連携の交流活動が充実してきている。円滑な小中の接続を期待している。 ・地域人材を効果的に活用し、地域に根差した教育活動に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。